



人権平和資料館だより

2018年(平成30年)6月

HUMAN RIGHTS & PEACE 第254号

人権と平和は
21世紀のキーワード

〒720-0061 福山市丸之内1-1-1

TEL 924-6789 FAX 924-6850

jinken-heiwa-shiryokan@city.fukuyama.hiroshima.jp

福山市人権平和資料館企画展

「地図から消された島・大久野島」

…大久野島・動員学徒の語り…

■日時 6月1日(金)~7月8日(日)

■場所 福山市人権平和資料館



学徒動員 1944年(昭和19年)11月

広島県竹原市忠海町の南方約3キロのところにある、周囲4キロほどの小さな島ですが、第二次世界大戦のときには、極秘の孤島として、地域住民も固く口を閉ざし、日本地図からも抹消されていた毒ガス島でした。

1929年(昭和4年)に陸軍直営の毒ガス兵器製造所として出発し、徐々に施設が整備されていき、国際法違反のイペリットや、ルイサイト等、猛毒ガスが製造されました。

そして日中戦争で、これが実際に化学兵器として使用されました。この島で働いていた人びとは、工員、職員、養成工、女子挺身隊、動員学徒、婦人会(当時)等、最盛期

には5,000人をはるかに超えていましたが、この人達は程度の差こそあれ、みんな毒ガス障害を受けました。

1944年(昭和19年)11月から翌年2月まで、この島で製造されたもう一つの兵器である気球(風船)爆弾の球体部分が、209個、ほとんど学徒達の手によって作られました。日本からは全部で9,300個、アメリカに向けて放球され、アメリカでは285の事故があったそうです。そして、オレゴン州で子ども達を含む市民を爆死させました。

今の大久野島は、瀬戸の海に静かに包まれて、四季折々の花が咲き乱れ、国民休暇村として、若者達の集いの場になっております。この「平和の島」を訪れるたびに、長期にわたって人体に影響し続ける化学兵器の恐ろしさのことを考えます。核兵器の廃絶と共に、核使用の誘発にもつながる生物や、毒ガスなどの、すべての化学兵器が廃絶され、人類の手によって恒久平和が保障される

ことを願わずにはおれません。 *子どもたちの太平洋戦争の著者 岡田黎子より

講演会「大久野島と女子勤労挺身隊」

講師：岡田黎子さん

無料

日時：6月17日（日）

13時30分～

場所：福山市人権平和資料館



講師プロフィール

1929年 広島県に生まれる。

1944年11月から1945年8月の終戦まで、県立忠海高等女学校の2年生から3年生（現：中学校2年生～3年生）へかけて、東京第2陸軍造兵廠火工廠忠海兵器製造所、大久野島毒ガス製造工場に学徒として出勤し、1945年8月に被爆後の広島に救護活動に入る。

1952年に京都市立美術専門学校を卒業し、1963年から1985年まで、中学校・高等学校に美術担当教師として勤務。著書に画集「大久野島・動員学徒の語り」「子どもたちの太平洋戦争」「絵で語る子どもたちの太平洋戦争―毒ガス島・ヒロシマ・少国民」がある。広島県三原市在住。

■アニメ映画上映会

無料

日時：6月24日（日） ①10時00分～ ②13時30分～

内容：DVD「ヒロシマに一番電車が走った」他

場所：福山市人権平和資料館